

トータル保険だより 冬号

●第183号 広報トータル保険だより
平成22年12月1日 (有)トータル保険
〒997-0853 鶴岡市小淀川色田 69-28
TEL 0235-25-1315 FAX 0235-25-1064

出会い

私には、忘れられない出会いがある。大学の時住んでいたアパートは、坂道を上った山の上にあった。アパートにピアノが置けなかったため、いつも大学の練習室を利用し、レッスン日には順番をとらなければならぬほどでした。レッスンのその日は、前日からの雪があたり一面を覆う寒い日でした。アパートを出てすぐの坂道を下り始めたところで、雪道でスリップした車に押され、そのはずみで、私は道路から一歩くらい下の田圃に落ちたのです。相手の運転手の男の人は「申し訳ありません。病院に…」と言ってくれたのです。



私たちは安心できる保険しか販売していません。保険に入りながらイザという時に役に立たないような保険は、大切なお客さまを不幸にします。店主



が、レッスンの事が気になり「別に何ともありませんから」と名刺だけもらって、大学へ急いだ。レッスンも終わり安心したのか急に腰と足に痛みが走り、近くの病院へ。幸いレントゲン結果は異常なし。湿布をして「今日だけは一応安静にしてください」ということでした。その日の夜、アパートのブザーがなった。出てみると、朝の運転手さんが謝りに来ました。見るからに気の優しいような人で、こちらが恐縮するほど何度も何度も頭を下げ、帰って行きました。二日目の夜も、同じようにブザーがなった。今度は職場の上司の方と二人で、心配そうに尋ねて来ました。何だか大げさだ、そこまでしなくてもいいのに…。

三日目の夜、いささか煩わしくなった私は居留守をつかってしまった。足音が遠ざかるのを待ってそつとドアを開けると、足下に小さな花束がひっそりと置かれていた。本当に心配して寄ってくれたのに悪かったなと思った。今度は「もう、お見舞いは結構です」と、はつきりと言わなければならぬ。四日目、勇んでドアを開けると、そこに運転手さんの姿はなく、代わりに赤ちゃんを背負った女の人が立っていた。「この度は主人が申し訳ないことをしました。今日は仕事が遅くなるので主人は来れません。」そうか、あの運転手さんの奥さんなんだ。次の瞬間、私はその場で、かえるのように飛び跳ねていた。もう一回飛び跳ねた。今思うと、ご夫婦の誠意に答えねばならないと必死だったのかもしれない。驚いた表情の奥さんに、私は言った。「見てください。もうこんなに元気です。お見舞い、本当にありがとうございます。お見舞い、どうぞ、もう大丈夫とお伝えください。」奥さんは、最後に深く一礼し、雪の中を帰って行った。ご主人と人柄が重なるような、ていねいな印象の人だった。あの赤ちゃんはずっとこの両親の生き方を見て、まっすぐに育っていくにちがいないと思った。決して自分を偽らない生き方を残す。そう教えてくれた今も心に残る出会いの一つである。

何でも親身になってくれる

山形市在住 坂西直美さん

数年前、入院していた病院の同室の方との出会いがきっかけでした。その方は庄内の方で、生命保険を大川さんにかけており、入院中、生命保険の話から「よかったら私の入っている方を紹介するね」の一言から大川さんを紹介して頂きました。

鶴岡の方なのに山形市まで来て頂き、お話しをさせて頂きました。とても親身になって相談に乗ってくれ、希望通りの生命保険に家族全員加入することができました。

その後、実家の関係でかけていた自動車保険もお願いすることとなり、この前は、子どものスポーツ中の怪我の心配もあつたので傷害保険もお願いしました。すぐに対応してくれ、お任せしておけば安心！から保険はぜひんぶお願いします。

これから面倒見てください。よろしくお願います。

